

要請にたいしては、これは立命館大学に譲られた責任の責任であるという風に考えます。入学試験はどうしても実施したい。(「金だけとって授業はどうひらこうとするのか」「サギではないか」)

八(経済学部) 手帳教授は、学生は体を売ればよいと発言をいっている、これは資本家の態度ではないか。こういう人間が入試をやろうとしている。

武蔵 通達として(入試を)言ったのではない。もしそうであるとしたら、いい大学にしていかなければならないという発言をこの場でするわけではない。教授の面でも、マスプロのへい容を除去するなどの充実はからねばならない。現在の文教政策に對立してやっておるのは、二部の大学教育をやっておるのは経営者からの発想ではない。

後継者なしに、大学の改革はすまないと。和田(日本史学会委員) 文学部、日本史を例にあげて発言する。日本史専攻では、五人の教員のうち四人が辞めている、どうして教員を確保するのか。又、文学部段階で教員の一人をやめていく。残っているものも辞めたいと思っているが辞められないというにすぎない。学校にもめてこない無能力なものが多い。こういう状況でどうしてまともな教員を確保するのか。これはサギではないか。

武蔵 多くの人が、学園を去ろうとしているのは立命館大学体制の悪さのあらわれであって責任を感じます。和田 日本史において教員を確保できると言うのか、どうか。文教委員会や学務委員会も日本史の教員を確保できないと言明している。武蔵 教員内容を確保するように全力をあげる。(「具体的に言え」やじしきり)

和田 文学部の話しあい路線がとらなくなった段階で三役と他数名の方が辞任した。よってきたるところはない。立命館民主主義が形骸化し、それらが学生諸君にひとつの毒と作用している。理事会と学生とのパイプがつまっていたことなどの問題を解決して辞任された先生を迎えるようにしたい。その基礎はできた。教員会は、学校に登壇されない先生に、徴せられるように全力をあげて動いている。四回生の卒業、新入生を迎える体制の確立へ責任もってあたりたい。

和田 回答になっていない。日本史の教員は帰らないと明言している。これは、武蔵氏の強硬路線の責任であって、現在、卒業などとも何の体制もとられていない。日までは、実力路線があった段階では、たしかに帰ることができない。四回の登壇の因、本日の全共同との因、新しいめばえの中で、必ず、学園に帰っていただけると確信している。高野(日本史教室助手) 私は二日の実力行使に反対して辞表を出したのではない。一八日に、それ以前の、こういった事態をおこす立命館の悪い体質に反対して辞表を出したのだ。事態は流動的である。と。言う。ところで、このような根深い悪質な体質に對して学生諸君が、罵ることなく断絶として抗議の行動を執ったことが事態を流動的にさせた理由である。武蔵氏が学友会の行動はもっともだったからといって事態は流動的に大たのではない。一月二十七日の大学の声明では、このような大たの学友会が責任を負うといっている。しかし、そのような問題ではあるまい。そこところがあるからならぬ武蔵理事長は、全学諸君が学友会を解体するとかんたんにいったけれども、しかし、体制が解体され、かりに学生諸君が非常な困難をはらって新しい立命館をつくりたいとしても、その転換のときに、じゃまになるのは武蔵理事長、あなただ。(「歓声と同意をしめす拍手」) 武蔵理事長は今になっていとも簡単に立命館体制は問題があるという。もしも、一月二日の学友会の行動が成功していたら、あなたは今何とい

っているか。おそろくこう言ったにちがいない。立命館体制万才。と。学友会の行動が多額の学生によって阻まれたとき、今になて甘いことを言えるのだ。あなたには、新しい立命館が生まれるなどという権利は絶対にはいはずである。(「武蔵理事長、何とか言え」) あなたがたががいるかぎり、私は絶対にかえらない。私は新しい立命館をつくる学生の運動に徹底的に協力することが私の任務であると考えている(強い拍手) そういう私にとってあなたとていつの間にかは敵対的でもある。あなたの考えをききたい。と、だから主本人が帰ってくるために全力を尽くさねばならぬことをなすと言っておるのです。

高野 二三日の夜に何をしていたか。あなたは清心館の部長室と金庫の間の間をうろ／＼していただけではないか。あなたは、な学友会の行動の前に全身をもって立ちのけななかつたのか(「そうだ」) 辞表を出した教員の私が放水をあびてずぶぬれになっている時に、私は武蔵氏が帰ってくる(「辞めずに居る」)のを許すことはできない。あなたはかえれないのだということ。をわかないのか。あなたは受験生が七万五千人いると言った。しかし、あなたを信じて入学してくるような者なら何万人こようと立命館は悪くなるばかりではないか(高野助手の高い響くような発言が終わると間をおかず拍手が、応じるようにおこり、沈黙する武蔵氏を指弾する声がかきおこる)

武蔵 七万五千人の受験生が、私どもの行動を知った上で行くとは考えません。立命館で学びたいということである。学ぶところに領するために体制を整えていかねばならない。そのために障害になる問題を解決していきたい。

八は。きりと如何なる具体的な自己批判の行動をとるのか言え。武蔵 どういう形をとるかということを使う場ではない。しかし私は文書で書き、又口頭で述べている責任をとるということは実行に移します。

八一月二日以後、一体何を考えてきたのか。その責任を果たそうと考えてきたはずだ。武蔵 反省すべきものは反省してきた。私はその責任をとると申している。

八責任のがれは断して許さない。武蔵 私は具体的にどういう責任をとるかということを書ける場ではないと思っている。(「何を言っているのか、ふざけるな」) 八全学理事会因交はカンパニアの場ではない、いかなる責任をとるか答えることができないはずはない。武蔵(武蔵氏に答えず) (激しいやじで喝采) 樹谷(学友会) 教員の辞職は教員条件の崩壊であり、それは平和と民主主義の教員理念の崩壊に原因をもっている。そのような状態のなかで、入試ができるのか、新入生を迎えることができるのか現在の事態は、単なる教員条件の崩壊ではないのである。

武蔵(武蔵氏に答えず) (激しいやじで喝采) 樹谷(学友会) あなたが沈黙するということは我々、学生に對する圧殺行だ。武蔵(学生のやじをうけても、沈黙したまま) 樹谷 入試を行える状況にあるのか、答えよ。発言するのは、新入生への責任である。(「しゃべれ」) 「こたえろ」努力するではだめだ」等、立てて発言する者多く、その場の空気が緊張して、学生相互の応酬もあり、押し問答がつづく) 和田 つまり、抽象的には入試をできると言えても、具体的には何ら回答をもてないということではないか。文学部、日本史専攻(の教員と入試)はどうするのか。入試をできる状態にはないではないか、できるのかできないのか。